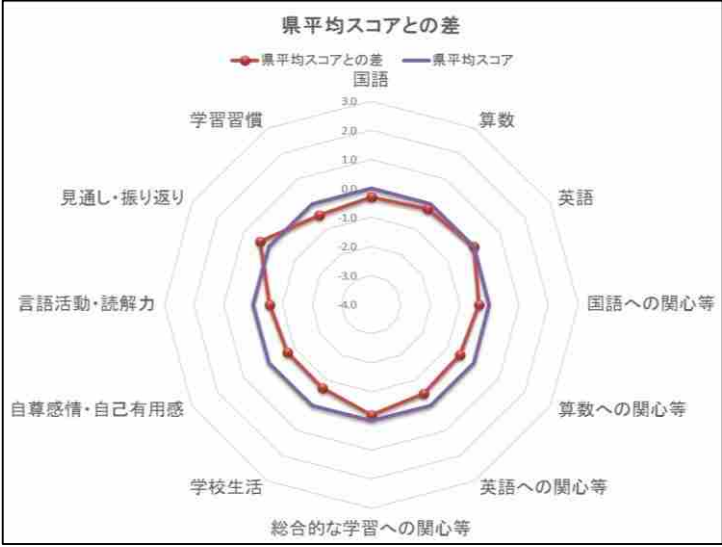


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立出雲郷小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字の読み書きは概ね定着している。 ●ローマ字での表記に大きな課題がみられる。無回答率も高い。 ●目的に応じて文章を比べて読んだり、表現を工夫して詳しく書いたりする力に課題がみられる。	・漢字会の取組を継続していく。 ・ローマ字を書く機会を増やす。 ・国語だけでなく、他教科における調べてまとめる学習を充実させ、読んだり書いたりする活動に取り組む。
	算数	○領域別にみると、相対的には図形領域の正答率がやや高い。 ●4年生の履修内容である、小数と整数の加法、分度器での測定などに課題がみられる。 ●数量関係領域は、県平均正答率に比べて著しく正答率が低く、無回答率も高く、大きな課題がみられる。	・計算会やチャレンジタイムにおける計算力向上の取組を継続していく。 ・児童の実態や単元の特性を見極め、TT指導や少人数指導指導を適切に配置して指導を充実させる。
6年	国語	○漢字の読み書きは概ね定着している。 ○段落相互の関係を考えながら読む力が定着している。 ●ローマ字での表記に若干の課題がみられる。	・漢字会の取組を継続していく。 ・ローマ字を書く機会を増やす。 ・読書指導に引き続き取り組んでいく。
	算数	○どの領域も概ね定着している。特に分数の計算や比についての理解を問う問題についての正答率が高く、基本的な力が定着している。 ●単位量当たりの計算や割合、基礎的な内容を活用して考える問題の正答率が低く、課題がみられる。	・計算会やチャレンジタイムにおける計算力向上の取組を継続していく。 ・課題がみられる領域にかかわる復習を重点的に行い、定着を図る。 ・少人数指導を適切に行い、発展的、補充的な課題を効果的に取り入れながら指導していく。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	58	50
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 74 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	67	63
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 75 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○学習を振り返る活動によく取り組んでいると考える児童が多い。 ●話し合う活動に取り組んでいると感じている児童の割合が低い。 ●うまく伝わるように話の組み立てを工夫したり、理由がわかるように書いたりしている児童の割合が低い。	・学習形態を工夫したり、話し合いの際の教師の支援をあり方を工夫していく。 ・特別活動の計画を見直し、折り合いをつけたり合意形成を図ったりする活動の充実を図る。
	家庭学習に関わる事項	●宿題を必ずする児童は県平均並みだが、計画を立てて勉強をする、家で学校の授業の復習をしている児童の割合が低い。 ●平日、学校の授業以外に1時間以上勉強をする児童の割合が低い。	・家庭学習が計画的に進められる指導を継続して行う。 ・自主学習のやり方、内容などをよく理解させ、自主学習の習慣を身につけさせる。
6年	授業改善に関わる事項	○学習を振り返る活動によく取り組んでいると考える児童が多い。 ●話し合う、探究する、発展的に取り組むといった、学びを深めていく活動によく取り組んでいると感じている児童が少ない。 ●各教科の学習を好きだと感じている児童が著しく少ない。	・授業の中で相手意識をもたせたり、理由をつけて発言する場面を多く取り入れたりする授業づくりに努める。 ・学習と生活場面がつながっていることが意識できる場面づくりを意識して取り入れる。 ・安心して学習に向かうことができる学級づくりに努める。
	家庭学習に関わる事項	○学校の宿題に取り組む児童の割合が高くなった。 ●読書が好きだという児童が少なく、平日10分以上読書をする児童の割合も著しく低い。	・図書館活用授業と連携し読書の幅を広げさせる。 ・家庭学習が計画的に進められる指導を継続して行う。 ・自主学習のやり方、内容などをよく理解させ、自主学習の習慣を身につけさせる。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

